

3 研究のまとめ

(1) 成果

授業実践における考察を通して、集団の中で自分を見つめ、目標を自己決定し、よりよい自分を目指して目標達成のために取り組む児童の姿を見取ることができました。そこで、次の2点を研究の成果とします。

【研究の視点① 自分に合った目標を立てることができたか】

自己を分析し、よりよくしようとする自律的な資質・能力を養う視点である「バウンダリーワーク（境界線引き）」の考え方を取り入れた活動を考案し、授業実践を通して、その有効性を明らかにすることができました。

【研究の視点② 実践を基に、自己目標の振り返りができたか】

学級活動(2)の学習過程において、実践の自己評価や他者評価、個人の振り返りや学級全体の振り返りの機会を充実させたことで、児童は目標設定の大切さや「なりたい自分」に向かう道筋をつかむことができ、自己実現につながるということが分かりました。実践を基に自己目標を見直すこと、自分に合った自己目標を立てることが、よりよい自分を目指して目標達成のために取り組むことに有効であることを明らかにすることができました。

(2) 課題

目標を自己決定し、実践する際に使用した「がんばりカレンダー」には自由記述の欄を設けて個人の振り返りを書かせましたが、何をどのように取り組むことができたのかを具体的に振り返るための自己評価の観点を示すことが必要だったと考えています。したがって、毎日実践を振り返るカードには、さらに工夫が必要だと考えました。その工夫によって、軌道修正の方法等についても、より具体的に児童に示すことができるのではないかと思います。これから検討し整理をしたいと考えます。また、学級活動(2)を再構成した形で新設された新学習指導要領における学級活動(3)の指導過程について研究を深めたいと思います。